



## NSP/MIOX の成分

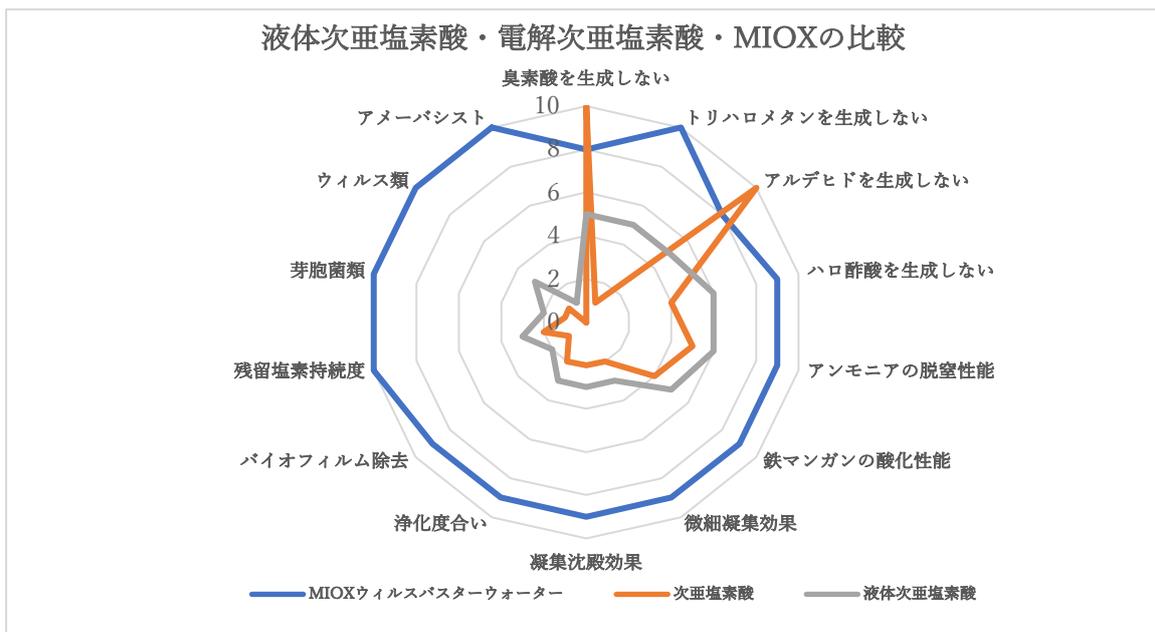
MIOX ウィルスバスターウォーター原液は人体に優しい中性溶液(PH：7.5～8)です。基本的に NSP/MIOX(混合酸化剤)の成分は酸化剤によって構成されています。その成分の割合を正確に決定することは困難ですが概ねの成分の割合は以下の表の通りです。

全体量約	5000mg/ℓ	全ての酸化剤
O <sup>3</sup>	250mg/ℓ	Ozone
H <sup>2</sup> O <sup>2</sup>	250mg/ℓ	過酸化水素
CLO <sup>2</sup>	250mg/ℓ	二酸化塩素
O <sub>2</sub>	2500mg/ℓ	スーパーオキシド
CL	1750mg/ℓ	塩素

上記の表の示す通り、O<sub>3</sub>：5%、H<sub>2</sub>O<sub>2</sub>：5%、CLO<sub>2</sub>：5%、CL が30%、活性酸素：50% となっています。各々の成分は少量ですが、シナジー効果を発揮し、素早い酸化反応を起こすことができます。特に、O（酸素原子）を多く含むものは分子レベルでの酸化が可能 です。

ウィルスバスターウォーターを用いた除菌のキーは、シナジー酸化力にあります。このシナジー酸化力により細胞膜、DNA、およびRNA を分解し、さらに塩素によって塩素によって細菌を窒息させることで強力な除菌が可能となります。

参考資料として他の除菌剤との効果の比較を示します。ウィルスバスターウォーターは全 てにおいて優れていることがわかります。

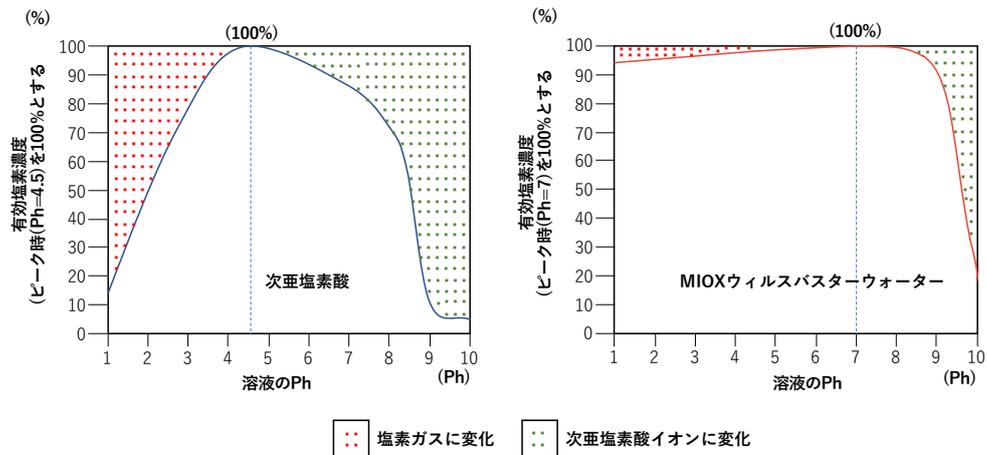


### 水道水との混合による成分変化と安全性

一般的に水道水といっても、その Ph は 5.8~8.5 と範囲があります。つまり除菌液が水道水と混合された場合、その Ph が変化することになります。

代表的な次亜塩素酸水を比較対象とし、ウィルスバスターウォーターの Ph 変化による成分の変化を示したものが下の図です。

各PHにおける、次亜塩素酸とウィルスバスターウォーターの殺菌力、および物質平衡状態を示したグラフ



次亜塩素酸は Ph4.5 から酸性になると、塩素ガスを多く発生します。塩基性になると、殺菌物質が次亜塩素酸イオンとなり除菌力が低下します。一方でウィルスバスターウォーターは Ph の変化に強く、酸性になった場合でも、塩素ガスを発生しにくく安全です。また塩基性領域でも除菌力を保つことができます。